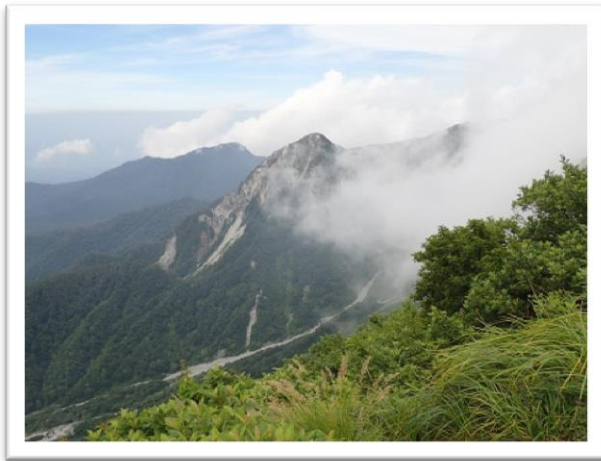


大山の森だより

2019年夏



緑あふれる大山

木々の緑がまぶしい季節がやってきました。

緑(みどり)とは、成長した植物の葉の色のことです。古くは、緑を含む寒色系の色を「あお」と呼び、暖色系等の色を「あか」と呼びました。若々しい緑の葉を「あおば(青葉)」と呼ぶのはそのためです。「みどり」という語が登場するのは平安時代になってからです。これは本来「瑞々しさ」を表す言葉で、3歳以下の子供を表す嬰兒(みどりご)という言葉にその名残が見られます。その後、植物の芽生えにも「みどり」が使われるようになり、色の名称として定着しました。

緑は安心感や安定、調和を表す色です。木や森などの自然の色でもあるので気持ちを穏やかにし、心をリラックスさせてくれます。また緑の森は木の香りの成分として知られるフィトンチッドがあふれ、心身を健康にしてくれます。

緑あふれる夏の大山へ生きる力をいただきに来てみませんか？

春期 自然ふれあい事業 活動報告

○鏡ヶ成山開き・擬宝珠山登山 (協力事業)

開催日：4月25日(木)



深い霧のためカタクリの開花は見られませんでした。イワナシやサンカヨウなどの深山の花が楽しめました。下山後の団子汁も好評。

○榎水高原・アサギマダラ観察会

開催日：5月25日(土)



真夏のような暑さの中、アサギマダラを捕獲調査しました。♂11頭、♀2頭の計13羽をマーキング。放たれた蝶は何処へ行くのかな？

※6月15日に開催を予定しておりました大山北壁(国際ゲレンデ)・アサギマダラ観察会は悪天候のため中止しました。

※5月25日に標識したアサギマダラの再捕獲情報は、6月15日時点ではありません。

アサギマダラ

旅する蝶として知られるアサギマダラ。春に南西諸島から北上し、夏には北海道南部に到達、そして秋には再び南西諸島に向けて南下します。今年5月11日にアサギマダラの大山への初飛来が榎水高原で確認されました。



■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。

予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。

裏面にイベント情報を掲載しています。

大山登山の注意情報

6月17日から11月29日(予定)まで、大山夏山登山道の6合目避難小屋および頂上避難小屋の全面改善工事が行われます。工事期間中は小屋の使用ができません。

5合目登山道わきに仮設トイレを設置、頂上に仮設売店と仮設トイレを設置します。

山頂は特別保護区になっており、テントの設営もできませんので、工事期間中の山頂宿泊はご遠慮ください。

※山頂避難小屋での宿泊はできません。

■下山キャンプ場利用申込・問合せ先

TEL:0859-52-2165 ※8:00~18:30

090-3178-6890 ※8:00~18:30

(自然公園財団 鳥取支部 大山事業地)

キャンプ場(豪円山・下山)の注意情報

豪円山キャンプ場は諸事情のため今期営業を中止します。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

下山キャンプ場は、老朽化した管理棟が撤去されました。宿泊手続きは階段下の仮設管理棟をご利用ください。

■下山キャンプ場利用料金 (7月13日~8月31日)

	1泊	日帰り
大人(高校生以上)	500円	250円
小・中学生	400円	200円

※テント・タープをご利用(持ち込み)の際は、1張につき別途300円いただきます。

※貸テント(4名用)2500円。炊事用薪は400円で販売。

※9月以降は全面改修工事のため使用禁止になります。

大山の森と海をつなぐ美しい鳥「アオバト」



大山のブナやミズナラの森からときおり熱帯のジャングルにいるような間延びした生き物の声が聞こえてくることがあります。「あ〜お あおあおあ〜おあお〜」と(私には)聞こえるその声は、アオバトという全身がほぼ緑色(背と羽が深緑、頭と腹側が薄黄緑、オスは羽の肩部分が赤紫色)の美しいハトの鳴き声でした。

アオバトという名前の由来は、その「鳴き声」からとも「羽の色(※P1参照)」からとも言われます。普通のハトぐらいの大きさで、広葉樹の森で木の実を食べており、葉陰にいると見つけるのは困難です。声は聞けども姿は見えぬという感じです。

しかし思わぬところでこのアオバトの姿を見かけることがあります。それは海岸です。理由はよくわかっていませんが、アオバトはときおり海水を飲みに群れで岩礁までやってきます。飲む場所は決まっているのでよく晴れた日にその岩場を見張っていると観察することができるのです。大山周辺だと大山町の旧光徳小学校前の海岸がアオバト観察の穴場です。塩水を飲みに定期的に海にやってくる地上生物はアオバトぐらいではないでしょうか。波打つ岩礁に緑色のハトが集団で舞い降りる、舞い立つさまは非常に美しいとのこと。残念ながら私は岩礁の上を舞っている群れしか見ていませんが、※左下の写真がアオバトの集まる岩礁。沖の岩場に舞い降りるので望遠鏡があったほうが観察しやすいです。



アオバトが集まる旧光徳小学校前海岸

大山の森と海を結ぶ鳥「アオバト」に会いに来ませんか？アオバトは年中大山にいます。

※アオバト写真はウェブサイト「徒然野鳥記」からお借りました。

(<http://www.cec-web.co.jp/column/bird/bird90.html>)



夏は大山の素晴らしい自然を楽しみにたくさんの観光客が来られるシーズンです。ただ問題を起こす小さな生き物がありますので気を付けてくださいね。



〇 フヨ? フユ? フト? きれいな環境にしか住めない吸血鬼



アシマダラブユ

体調約2～4mmの吸血ハエ。正式名はブユ、関東ではブヨ、関西ではフトとも呼ばれる血を吸うコバエです。日本には約70種が生息しているとのこと。ブユは刺して血を吸うのではなく皮膚をかじり取って血をなめるため、血を吸った場所から血が滲みます。血を吸う際に皮膚の中に麻酔物質を流し込むのがひどい痒みの原因で、アレルギー反応を起こして何週間も腫れ上がる人もいます。

ブユの幼虫は溪流で生活しているため、成虫は溪流の近くや山中、そうした自然環境に近いキャンプ場などで多く見られます。成虫は夜間に活動しません。また、幼虫は清冽な水質の指標昆虫となるほど水質汚染に弱いため、住宅地などではほとんど見られません。

対策は皮膚をさらさないこと。ブユの生息地では長袖長ズボン、ソックスも長いものにすることをお勧めします。噛まれた場合はステロイド外用薬を塗ること。ブユに刺されてもすぐには痒くなりません。しばらくしてから赤く腫れあがり強烈な痒みが長時間続きます。たくさんの箇所を刺されたら迷わず病院へ行きましょう。撃退には**ハッカスプレー**が効果があるようです。

ブユがいるということは自然環境が良いことの証ですが、困った生き物です。

〇 夏になると目の周りを飛ぶやっかいもの メマトイ

森に入ると目の周りを小さな虫がまとわりついてくることがあります。追いはらってもすぐにまたやってくる。そんな少々うっとうしいハエの仲間たちのことを「メマトイ」と呼びます。地域によっていろいろな呼び方があり、大山周辺では「メブンブ」と呼ばれています。ブユに似ていますが、血を吸うことはありません。

彼らが目に向かって飛んでくる理由は、実はよく分かっていません。いろいろな説があるようです。

日本には十数種が生息し、一部の種類には東洋眼虫という線虫が寄生している可能性があるため、目に入ったときはしっかり洗い流してください。



ヒゲフトコバエ(クロメマトイ)

とにかくうっとうしい生き物です。これも撃退には**ハッカスプレー**が効果があるようです。

※写真は2点ともインターネットからお借りました。

「大山にはヤマビルはいるの？」

このような問い合わせをよくいただきますが、大山でヤマビルの被害に遭われた方は聞いたことがありません。ヤマビルはシカが運んでくると言われますが、大山には明治時代以降シカが生息していませんでした。しかし近年、シカの繁殖が確認されており、今後は警戒した方がいいかもしれません。

「大山にマダニはいるの？」

大山にかかわらず、野山にはマダニが生息しています。めったに噛まれることはありませんが、被害に遭わないために、草むらに入るときは肌の露出は極力避けましょう。

ーイベント情報（8月～9月）ー



■自然公園財団のイベント（予定 2019年6月15日現在）

○ブナの森散策とクロモジ蒸留体験

開催日：8月24日（土）9:00～12:00

会場：下山キャンプ場炊事棟

集合場所：自然公園財団事務所前

参加費：1500円 容器代も含む

※完成した芳香蒸留水は参加者に分配されます

アランビックを使ってクロモジの芳香蒸留水を作ります。クロモジとは大山のブナ林で見られる落葉低木。殺菌効果が高いことから和菓子の爪楊枝に加工されます。

いろいろ蜂蜜試食体験もあり。

定員10名

○大山・秋の花観察会

開催日：9月7日（土）9:00～12:00

会場：豪円山周辺

集合場所：自然公園財団事務所前

参加費：1500円



8月が過ぎると大山に早々とは秋がやってきます。秋の気配を探して豪円山周辺の草原や林を歩き、花々を愛でます。途中でティーブレイクあり。

定員：15名



■周辺のイベント■

お盆の大献灯 ～和傘灯り～

8月10日（土）～12日（月）

19:30照明点灯～21:30最終入場（22:00消灯）

大山の夏の風物詩。大山寺本堂一帯や大神山神社奥宮参道周辺を、和傘と和紙の幻想的な灯が彩ります。

和傘は地元和傘職人に特別注文した「大山傘」。

入場料：中学生以上ひとり1000円の入場チケット制

お問い合わせ先：0859-52-2502 大山観光局



大山隠岐国立公園

冒険手帳

昨年好評だった冒険手帳を今年も配布しています。大山隠岐国立公園内で手帳内に記載されている体験をしたらチェック！

チェックをするとポイントが貯まります。ポイントの数によっていろいろな「記念品」がもらえますよ。

冒険手帳は、大山ナショナルパークセンター、大山自然歴史館で配布しています。

大山隠岐国立公園で冒険しよう！

※7月から9月は上記以外にもイベントが多数開催されます。インターネットなどで情報をご確認ください。

一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33

大山ナショナルパークセンター 1階

TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370

URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

